

「起き上がり小法師展」

あすからロンドンで

安倍首相ら絵付け 本県の復興発信



東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復旧・復興に取り組む本県の姿を発信する「起き上がり小法師(こぼし)展」は七日から十一日まで英国ロンドンの国会議事堂・ウェストミンスター宮殿内で開かれる。在英県人会ロンドン(こぼし)展は七

原発事故の被害や県民生活への影響、世界からの支援で復旧・復興に向かう姿などを写真と起き上がり小法師のオブジェで紹介する。安倍晋三首相をはじめ、サッカー日本代表の香川真司さん、ミュージシャンの布袋寅泰さんら国内外の著名人の手による起き上がり小法師約六十点も展示し、来場者にも絵付け

をしよう予定。同展は福島民報社の「復興大使」派遣をきっかけに平成二十四年七月にロンドンのホールランド・パーク内に誕生した「福島庭園」の開園二周年記念事業。世界遺産のウェストミンスター宮殿が英国以外の行事に開放されるのは極めて異例で、ワールド県人会長も務める満山善郎ロンドン

初日は午後六時から会場内でレセプションが開かれ、同展の主権者を代表して福島民報社の早川正也復興戦略実行委員会副委員長(編集局次長)があいさつする。

展示会、福島への思い凝縮

「EUによる食品規制 つある。(福島県の現状は徐々に緩和されてきて についての) 理解は進んでおり、状況は改善されつつ ているが、風評は完全に

拭拭(ふっしょく)されていない」

一本県にとって記憶の風化と風評が復旧・復興の足かせになっている。「機会があるたびに復興計画は着実に進んでいると伝えているが、前向きな動きは広がりなく

「天皇陛下のお言葉の石碑も建立され、市民生活の場であるとともに観光スポットでもある。さらに、庭園を訪れる人たちが福島を意識する場になっ

「復興大使」

「起き上がり小法師展」開催の意義などを語る林大使

林景一駐英大使に聞く



「起き上がり小法師展」開催の意義などを語る林大使

「起き上がり小法師展」開催の意義などを語る林大使

【ロンドンで早川正也編集局次長】「起き上がり小法師(こぼし)展」まで三日に迫った四日(日本時間五日未明)、福島庭園の誕生に力を尽くした林景一駐英大使に展示会開催の意義などについて聞いた。

— 東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から三年余りが経過した。県内の現状について英国をはじめとするヨーロッパ諸国はどのように受け止めているのか。